中学校特別支援学級　自立活動　指導案

１　単元名　　伝え上手になろう

２　単元の目標

ゲーム的な要素をもつ活動を通して誰に対しても話すことができ、学校生活で困ったことがあったときに、自分なりの方法で相手に自分の気持ちを伝えることができる。

３　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の気持ちを伝える方法を知っている。	・場面を想定して、どのように伝えたらよいかが分かる。	・他の生徒の方法を見ながら、自分でできそうな方法を取り入れようとする。

４　単元と指導の構想

（１）生徒と単元

異学年の集団である。穏やかで、学級内では分け隔てなく誰とでも何でも話せるが、教職員や交流学級の生徒には伝えたいことがあってもうまく伝えることができない。

小学校の低学年から特別支援学級に在籍し、手厚い支援を受けてきたためか、自分は何でもできると自身を過大評価したり、通常学級の生徒と比べてできないことが多いと過小評価したりしている。また、困ったことがあっても手を差し伸べてもらえるのが当然、助けを求めなくても周りが何とかしてくれると思い込み、黙って待っていることが多いと感じている。

（２）指導の構想

生徒の実態に即して，次のような手立てで行う。

まず、生活の中で自分でできることを知るために「得意・不得意アンケート」を行う。職員と一緒に実際の場面を想起させながら行い、苦手だと思っていたことが実はそうでもなかった、逆に自分はできると思っていたが案外できていなかったなど、自己理解させる。

次に、生徒が毎日の生活の中でお手本になるような良い行動をした場面を職員が見つけ、「いいね」と称賛する。そしてその行動を他の生徒の「いいねカード」に書き、「〇〇さんの△△というやり方はいいね。自分はそのやり方ができる？・難しい？」と自己分析させる。このカードを貯めていくことにより、自分が他のお手本になったという喜びを味わったり、その方法がよいやり方であると学習したりする。

また、生活の中で困ったことは突然、そして偶然起こる。その突然と偶然を受け止め、適切に対応できるように、ゲーム的要素を取り入れた活動を行う。

５　単元の指導計画（全８時間　本時　７／８）

時限	◎学習のねらい　〇学習課題（目標）　・活動内容
第１時	◎自分の経験したできごとを話すことで、クラスの生徒の前で話すことができる。 〇みんなの前で話をしよう。 ・過去のできごとを発表する。
第２時	◎サイコロの目で決まったテーマについて話すことができる。 〇どんなことでも話せるかな。 ・サイコロトーキングでスピーチする。
第３時	◎自己理解を深めることができる。 〇自分の得意なこと苦手なことを知ろう。 ・自分の得意・不得意なことをカードにまとめる。

第４時	◎自分を理解し、問いに答えることができる。 〇お題に答えよう。 ・すごろくで止まったマスの問いに答える。答えにくかったら、教師と一緒に考える。 ・他の生徒のやり方を自分に当てはめて考えてみる。
第５・６時	◎自分を理解し、問いに答えることができる。 〇お題に答えよう。 ・すごろくで止まったマスの問いに答える。答えにくかったら、他の生徒のやり方をまねてみる。
第７時 （本時）	◎学校生活で困ったときに、誰にどのように言えばいいかを話し合える。 〇こんな時はどうする？ ・困ったときに、自分だったらどのように伝えるかを話し合う。
第８時	◎学校生活で困ったときに、誰にどのように言うかを練習する。 〇こんな時、私はこうするよ。 ・困ったときにどのように伝えるかのロールプレイをする。

６　本時の計画（７時間目／全８時間）

（１）本時のねらい

・他の生徒のやり方を聞くことによって、困ったことがあったらどうすればよいのか、選択の幅を広げることができる。

・じゃんけんやサイコロで決まったことを受け止めて活動することで、突然の出来事や偶然を受け入れることができる。

（２）本時の構想

最初の「サイコロトーキング」では、発表する順番をじゃんけんで決める、サイコロの出た目のお題について答えることで、突然と偶然を受け入れる。

次の「こんな時はどうする？」で、学校生活で起こりうる「困った場面」を提示し、自分でできそうな方法を考える。思いつかない場合は、これまで貯めてきた「いいねカード」を見返し、自分のもっている力を活用して対応の方法を考える。また、他の生徒の発表を聞き、その方法をまねることも一つの方法であることに気づかせる。

（３）展開

学習内容・活動	〇教師の働きかけ　（●生徒の活動）
導入　【１０分】	
1 あいさつ 2 本時の確認 3 サイコロトーキング	〇「ルールを守って、サイコロトーキングをしよう。」 ●黒板に貼られたルールを見て確認する。 サイコロトーキングの順番をじゃんけんで決める。
展開　【３０分】	
４ 学校生活を振り返り、困った場面を思い出す。	〇発言を求める。出た意見を板書する。 発言がなかったら絵カードを提示し、想起させる。 ●自由に発言する。 **〈学習課題（目標）〉** **こんな時はどうする？**
5 それぞれの場面で、自分だったらどう言うか（どうするか）を話し合う。	〇「自分だったらどうするかな。」 生徒の考えをメモする。 ●自分にできそうな方法を考える。

	○思いつかない生徒には、「得意・苦手カード」「いいね！カード」を見せ、できそうな方法をアドバイスする。 ●他の生徒の発言を聞く。 〈まとめ〉 自分でできる方法でやってみよう。
振り返り　【１０分】 6　自分にできそうな方法を発表する。 7　次時の予告 8　あいさつ	○「実際に言ってみよう（やってみよう）。」 想定される場面はサイコロ決めさせる。 ●サイコロを振る。自分でできる方法で発表する。

7　資料

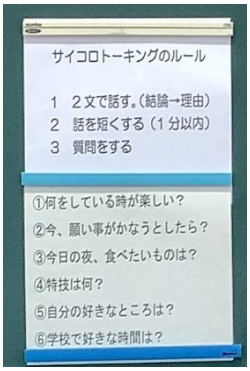
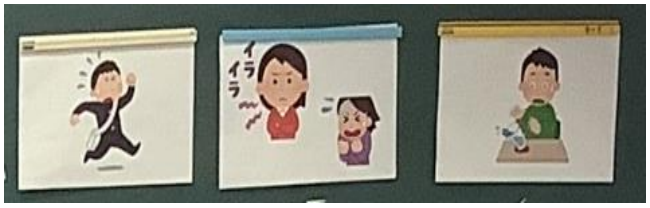
1　得意不得意カード

これは得意？　苦手？　　なまえ

大きな声で返事をする	4	3	2	1
自分から「おはようございます」を言う	4	3	2	1
よい姿勢で　礼をする	4	3	2	1
「ありがとう」を言う	4	3	2	1
「ごめんなさい」「すみません」を言う	4	3	2	1
手をあげて発表する	4	3	2	1
わからないときに「わかりません」を言う	4	3	2	1
相手にやさしくする	4	3	2	1
みんなといっしょに笑顔で遊ぶ	4	3	2	1

2　いいねカード

3　サイコロトーキング



4　場面